

宗門挙げての支援続く

東日本大震災

苦しむ人々の

支えに

なりたい

のみならず福島県二本松市に拠点を設け、原発事故の被災者を含め福島県での支援活動を重点的に展開。築地場外市場などと連携した長期的な活動も展開している。

故による被災者支援の施策確立を目指す。あわせ、宗門災害対策やボランティア活動への支援、義援金の募集・配分など具体的な活動を展開するため、本山に「宗門災害対策室」が設置された。

どの支援活動を行った。

3月17日には東北現地本部が仙台別院(仙台市)に宿泊施設を備えた東北教区災害ボランティアセンターを設置。ボランティア活動に関する情報を収集し希望者に提供するほか、支援物資の要望と受け入れの連絡調整などを行っている。

東京現地本部は首都圏

死者・行方不明者313人以上

114件以上の家屋倒壊・消失

3月11日発生の東日本大震災は、宗門にも甚大な被害をもたらした。津波による壊滅的な被害を受けた2カ寺を含め東北、東京教区を中心に290カ寺(2別院含む)から被害報告があった。「緊急災害対策本部(中門信徒被害は東北教区で家屋倒壊・消失が110件以上あり、279人以上が死亡、30人以上が行

方不明。このほか、北海道教区で門信徒4人が亡日に第1次復旧支援隊を7隊を派遣、被災寺院をの物資搬入や炊き出しな見舞うとともに避難所へ

「緊急災害対策本部(中央本部)」(本部長=橋正信総長)を設置、東北、東京各教区に「現地緊急災害対策本部(以下、現